

第3回廃棄物減量等推進審議会（第5次）議事録

平成18年3月3日（金）

午後1時30～午後3時30分

産業文化センター中会議室

出席委員 寺尾会長、硯見副会長、平井委員、大内委員、水戸野委員、加藤委員、
宇佐見委員、林委員、山谷委員、坂田委員、藤井委員、桑山委員、福井委員、
加納委員

欠席委員 戸高委員

事務局 桜井環境経済部長、鈴木環境務経済部次長、河田課長、大中、前田

会長 （開会）

（笠原町との合併により、笠原町からの新任委員が増員となったため、自己紹介）

事務局 （廃棄物処理手数料の値上げの効果について説明）

平成16年度の7月～2月と平成17年度の7月～2月のごみ・資源の排出状況を比較すると、ごみについては、排出量が減少しており反対に、紙類、特に雑紙類の資源量が増加している。今後、長期的なデータを取り比較していく。

委員 値上げによるごみ減量の予測値は達成しているのか。

事務局 10%の減量を予測していたが、残念ながら達していない。現時点では8%程度の減量となっている。

委員 時間経過とともに、減量効果も薄れていくと思われるので、5年や10年など定期的にごみ処理手数料の見直しを実施すべきではないか。

事務局 市の手数料や使用料は、ごみ処理手数料も含め、4年ごとに見直しを行っている。

委員 個人的には、今回のごみ袋の形状は使いやすいと感じているが、市民の反響はどうだったか。

事務局 取っ手（持ち手）部分が付いたため、持ちやすくなったとの意見がある一方、ごみ袋の底にマチを付けたため、水もれしやすくなったとの苦情もあった。

委員 ごみの減量のためには、値上げをすると効果があるとは思いますが、これ以上高くならならないよう減量方法を考えていかななくてはいけない。

委員 ごみではなく、分別し資源としてリサイクルしていこうという意識付けが大切だと思う。もっと、その意識を広めていくべきだ。

委員 家庭ごみを減らすには、かなりの割合を占める生ごみを減らすことが重要となるのではないか。

委員 「エコ・クッキング」などについてもPRしていくとよい。

委員 値上げにより、不法投棄は増加しなかったのか。

事務局 不法投棄パトロールを委託により実施しているが、今年度は減少傾向にある。

会長 今後も引き続き経過報告をするようにしてほしい。

事務局（平成 18 年度一般廃棄物処理実施計画案について説明）

委員 笠原町のリサイクルステーションの箇所数は、旧多治見市地域と比較すると多いと思うがどうしてか。

委員（笠原町在住の委員）笠原町は数年前までは、家の前の道路にごみ袋を置いておく収集してくれた。それをここ 1~2 年の間に、各地域にごみステーションを設置するまでとなった経緯がある。そのため、この合併を機にリサイクルステーションを、今のごみステーションの数より減らすのは無理だった。

委員 当然リサイクルステーションは自宅に近い方が便利なため、人口の割合で見れば笠原町地区はリサイクルステーションが多く、旧多治見市地区との差がでてしまう。今までの経緯もあるだろうが、今後は少しずつ見直していくべきではないか。

事務局 今後状況を見ながら検討する。

会長 それでは、異議がなければこの案を承認する。

事務局（笠原町との合併に伴う一般廃棄物処理計画案について説明）
平成 18 年度秋頃を目処に検討をお願いしたい。

会長 今、事務局が説明した案をもとに次回検討する。

事務局（平成 18 年度 4 月に一部地域で実施予定の生ごみ分別収集と堆肥化について説明）
会長 生ごみのリサイクルや減量については、今後大きな課題となると思われるため、今回の取り組みについても、また経過報告をお願いしたい。

（閉会）